地域おこし協力隊

―地域おこし協力隊がまちを活性化させる。―

平成28年度、長万部町は「地域おこし協力隊」を導入し、3人の隊員が誕生した。以来、令和5年現在まで合計8人の隊員が活動してきた。町に新風をもたらし、地域の活性化にも貢献する地域おこし協力隊の取り組み、そして卒業後の活動について迫ってみたい。

専門型と提案型の協力隊制度

地域おこし協力隊（以下、協力隊）とは、都市地域から人口減少や高齢化の進行が著しい地域に移住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PRといった地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みである（総務省ホームページより）。

各地方自治体が隊員を任命。任期は3年以内、活動内容や条件、待遇などは自治体によりさまざまである。地方自治体が自由に制度設計できる部分が多いのが特徴だ。平成21（2009）年度から始まった制度で、長万部町が導入した28年度には全国で約4000人の隊員が活動していた。

長万部町は、全国の多くの地方と同様に人口減少や人材不足が深刻化し、中心商店街に空き店舗が目立つ一方、令和12（2030）年度末の北海道新幹線長万部駅開業に向けてのまちづくりの推進には多彩な人材が求められる。町は地域外の人材を積極的に誘致すべく地域おこし協力隊の導入を決めた。

平成28年、町が課題と考える事業の担い手（観光・農業支援）として専門型の隊員を募集したところ、15人が応募。面接を経て隊員3人を採用した。

3人のうち、2人は観光案内所「インフォまんべ」のスタッフとして働きながら、さまざまなイベントや地域活動に参加、町のPRに携わり、1人はそれまでのキャリアから得た知識・技術を生かし、企画分野の支援員として活動した。

その後、協力隊制度を継続していくと、町が設定した課題に限らず、自ら挑戦したい事業やテーマを提案する隊員志望者が増えた。そこで、町では従来町になかった独自の視点からの事業創出等が商店街やコミュニティの活性化に結びつくと考え、令和2年度から提案型の協力隊制度を創設した。

01

活動しやすい環境づくり

町では、協力隊の活動について、「見守り方が重要」との考えを基本に、採用前から採用後まで職員が寄り添って支援している。

まず、募集時には専門型、提案型に限らず、応募者の挑戦したい事業の内容に応じて町内を案内し、場合によっては住民や事業者も紹介し、町に住むイメージを掴みやすくする。

採用後は、働きやすい環境を実現するため担当職員が手厚くサポートする。例えば、ミッションに対して主体的に関わる姿勢を身につけられるよう、自身の活動経費に関する予算要求も含め、事務手続きの多くを隊員自らが行う。また、行政組織全体で隊員の活動を応援し、隊員が円滑に仕事や定住準備を進めるため、配属先の職員と協力隊の担当職員が協力する。活動報告会を月に一度開き、隊員の状況を詳細に把握し、具体的なアドバイスを行うなど細やかに配慮するとともに、孤立化を防ぐ。

隊員が企画するイベントに、他の隊員が協力したり、視察研修に一緒に参加したり、隊員同士が交流する機会も設けている。年に一度の町民向け活動報告会では、企画・運営を隊員たちが一丸となって行う。

02

03

こうした隊員活動のための環境づくりに力を入れた結果、これまで町になかったようなイベントが数多く実現し、町民の参加も増え、着実に活性化がもたらされている。

活躍する卒業生たち

令和5（2023）年4月現在、6人の隊員が卒業し、卒業時点では5人が町内で起業・就職するなど、定着率は高い。

平成31（2019）年3月に卒業した中野美貴さんは、協力隊として子どもたちを対象にした自然体験イベントや木育活動などの経験を基に、卒業後、「officeごえん」を設立。学習文化センターを活用し、社会教育事業として「放課後子ども体験教室（放課後みっけクラブ）」を町教育委員会と共催し、令和元年6月にスタート。小学生を対象とし、放課後や休日にものづくりをはじめ、さまざまな体験活動を実施している。

平成30年に着任した松本雄祐さんは、当初は農業を志すも方針転換して飲食店の開業を目指した。卒業後の令和3年4月、中心商店街の一角に「炭火焼き鳥まっちゃん」をオープンさせ、現在、店主として厨房に立ち、まちのにぎわい創出に貢献している。

亀田純孝（すみたか）さんは図書館職員としての定住を目指して、令和2年4月に着任し、長万部町図書館業務の補助に当たる傍ら、静狩湿原特別展などの展示企画、合氣道教室、オーサービジット（作家を招いてのワークショップ）等の自主企画を実施。卒業後の令和5年4月、目標どおり図書館司書として長万部町図書館への就職が実現した。

さらに、令和5年現在、児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業所の開所を実現し、こども食堂「おっちゃんこ」を運営する隊員、オーガニック・グルテンフリーの飲食事業の創出を目指す隊員が活動中である。

04

05

06

01. イキイキとした子どもたち（中野隊員）
02. 活動報告会の準備（右から山谷隊員・亀田隊員・高橋隊員）
03. 協力隊終了後に焼き鳥店を開業した松本隊員
04. 空き店舗の活用を行う佐藤隊員
05. 活動報告会の実施（右から松本隊員・中野隊員・武澤隊員・西山隊員）
06. 子ども向けの合氣道教室（亀田隊員）

まつり

―まちを元気にするまつり。―

伝統の祭礼から盛大な産業祭りまで、さまざまなイベントが躍動する長万部町。特に夏には、2日間で約1万人が集まる「おしゃまんべ毛がにまつり」、勇壮にして熱気あふれる飯生神社例大祭や静狩稲荷神社祭典の神輿（みこし）海中禊など、人々を元気にしてくれるまつりが立て続けに行われる。

おしゃまんべ毛がにまつり

「おしゃまんべフェスティバル」を前身として、平成11（1999）年に名称を変えて続く、町最大のイベント「おしゃまんべ毛がにまつり」。「毛がに全日本早食い競争」などのステージイベントに加え、数量限定毛がに格安即売会や地元の新鮮野菜即売会、長万部名物のかにめしやホタテなど長万部のグルメを楽しめる。毎年6月下旬～7月上旬の土・日曜日にふれあい公園で開催。

静狩稲荷神社祭典 神輿（みこし）海中禊

毎年7月10日、漁業の豊漁と無事故を願ってみこしを担いだ若者たちが各家庭を回り、最後は噴火湾前浜を練り歩いて海中に入っていく勇壮な伝統行事。

飯生神社例大祭

毎年8月9～11日、飯生神社で開催される夏恒例の例大祭。国指定の重要無形民俗文化財である松前神楽が披露される9日の宵宮祭り、長万部太鼓やみこし渡御が行われる10日の本祭が見どころ。さらに神社横の広場では多彩なイベントが繰り広げられる。